

C P P Cのトライアル授業を実施

武庫川女子大学は病棟薬剤師業務を想定して、現病歴や検査値などから病態を把握したり、処方提案を行わせるC P P C (Clinico Pathophysiology conference: 臨床病態生理検討会) と呼ばれるトライアル授業を4年生を対象に行った。症例提示から2カ月半、グループに分けられた学生は、与えられた課題に対してS G D形式で検討。その結果を看護師や栄養士も加わったカンファレンスで発表し、意見交換を行った。多職種での白熱した討論に、学生からは「現実味があり興味が持てた」と、トライアルを評価する意見が多数を占め、教員側も有用との感触を深めた。

武庫川女子大学



2カ月半に及んだ症例検討を発表する学生ら

C P P C (C P Cとも呼ばれる) は医学教育や臨床現場において、症例の臨床過程をたどり、今後の治療方針に役立てるために、病棟主治医、病理医、薬理・病態生理系の医師らが集まって討議するカンファレンスを指す。

全国の薬学部でもC P P Cを採り入れた授業はおそらく初めてのケース。患者背景や臨床経過などから病態生理を把握させ、薬物治療や栄養療法などを提案させようというものだ。

一般に薬学部では、医療薬学に関わる授業で断片的に行われている。C P P Cを企画した篠塚和正氏(薬理学Ⅱ教授)は、「医療薬学に関する科目の連携を図りながら、医学教育で行われている統合型の授業を、薬学教育でも採り入れることで、有機的・実践的に薬を使っていく能力が養える」と、即戦力として活躍できる薬剤師を送り出したいとの思いを募らせる。

臍全摘テーマに症例検討

適切な対応で討論を展開

症例は、医師でもある森山賢治氏(臨床病態解析学教授)が、実際に主治医として受け持った、臍全摘で臍臓を全摘出した64歳女性のケースを提示。臍全摘では、必ず糖尿病に陥ることから、持続型インスリン導入による血糖コントロールのあり方や、教育目的で内科病棟へ転科後の対処を、薬剤師の立場でどう考えるかというものだ。

森山氏は「内分泌器官と消化器官として働く臍臓がなくなることで、血糖が上昇し、消化酵素が出ないため栄養不良も起きて、Q O Lは著しく阻害される。さらに症例では、持病の痛風や骨粗鬆症も患ってお

り、腎機能も低下している。現場では、そうした様々な背景を頭に入れながら、一元的に理解しておく必要がある」と、C P P Cトライアルの症例に選んだものだ。

そのC P P Cトライアル実施の説明会が昨年4月に、4年生を対象に開かれた。症例検討に取り組む25人の学生が集まり、「病態生理」「糖尿病」「骨粗鬆症と痛風」「N S T」の4チームに分け、課題が与えられた。

各チームは2カ月半、授業の合間や夜遅くまでS G Dで検討を重ね、6月下旬の土曜日に開かれたカンファレンスで、検討結果を発表した。

「糖尿病」グループには、病態を把握した上で、インスリン注射で血糖コントロールや糖尿病の改善が可能かどうか、適切なインスリン管理ができる症例かどうかで考慮すべき患者の背景、さらに処方提案などが、課題として挙げられた。

それに対して学生は、糖尿病の病態を解説した上で、患者の重症度を判定し、実際の処方をもとに、より適切だと考えられる「インスリンの処方変更」や「食事に合わせた投与法の指導」を提案。移植などの治療法も検討し発表した。

カンファレンス当日は、主治医役の森山氏、患者役の篠塚氏のほか、実際に病棟でチームに加わり、患者を担当していた糖尿病看護認定看護師と管理栄養士も討論に参加した。

学生の発表内容に対して、看護師からは「腎臓が悪いのに、そういった治療法はできない」といった意見が出されるなど、適切な対応をめぐる討論が交わされた。

トライアルとしては、想定される質問の下準備を各チームが行うなど、学生のきめ細かな対応も光ったという。また、現場の薬剤師

がチェックしていなかった消化酵素の投与時期についての指摘もあり、「学生の指摘で、私も初めて気づいた」(森山氏)という成果もあった。

最後に、提示した症例に対する処方や転科以後の状況を明らかにした森山氏は、「学生が検討した処方や解釈は、ほぼ現実に近いものだった」と賞賛した。

5時間超のロングラン授業に「現実感」が学生惹きつける

実症例が提示されたことで、臨床現場に直面するようなトライアル授業になり、聴講に来た学生の退席者はほとんどなかった。

「一般の講義などでは学生から議論は起こらないが、予想外に議論が出てきた」(篠塚氏)と、当初の90分で終わる予定がはるかにオーバーし、5時間以上に及んだ。

篠塚氏は「机上の学問では実際にどのように治療が行われていくのか、実感がいま一つない。今回のトライアルで、教科書通りにはいかず、紆余曲折があることを学びとったはず。その紆余曲折を理解させ、問題解決に取り組ませた」と、普段の授業では得られないメリットがあったという。

学部の最終的な計画は未定だが、将来的には6年生の科目として、C P P Cを採り入れる方向だ。「幅広く病態や患者さんを理解できる。即戦力で活躍できる素地が備わる」(篠塚氏)、「ディスカッションを作り上げていく連帯感を学び取れる。S G Dの過程も大事」(森山氏)と期待を寄せる。

2回目のトライアルは今年4月頃に予定されている。



地域社会で信頼される薬剤師を目指して成長を実感しています!



調剤&ドラッグ

OTCと調剤、共に精通した薬剤師育成に尽力

医療費抑制の動きの中、セルフメディケーションの流れが高まっています。次世代のスタンダードに対応できるような、薬剤師育成に力を入れています。

月間千枚以上処方箋応需店舗数 ドラッグ業界1位

患者様の立場に立った丁寧なアドバイスを徹底、地域の「かかりつけ薬局」をめざしています。

segami+

あなたとダブルス、たしかな健康。

【創業】昭和12年2月【資本金】15億8712万円【売上高】916億76百万円(08年3月期)【従業員数】社員数1501名

詳しくは下記URLをご覧ください。
<http://www.segami.co.jp>

セガミメディクス株式会社
大阪府中央区南船場2丁目7-30

フリーダイヤル:0120-999-041
E-mail:y-okada@segami.co.jp